

児童発達支援

☆支援方針

1. 集団療育プログラム(なかよしタイム)を通して、①コミュニケーション能力の向上、②ルールの理解と遵守、③自信と挑戦する意欲の向上、④情緒の安定と豊かさの育成、⑤日常生活のスキル向上を育みます。
2. 個別療育プログラム(にこにこタイム)を通して、①個々の発達に応じた支援、②自己表現力の向上、③成功体験を積み重ねることで自信を育む、④苦手分野の克服と得意分野の伸長、⑤情緒の安定と自己調整力の向上を育みます。
3. 音楽や運動、絵本の読み聞かせなどの活動を通して、感受性や表現力、創造力を豊かに育みます。
4. 認知能力と非認知能力を育みます。(「認知能力」とは、点数などで数値化できる知的能力、「非認知能力」とは、数値化することが難しい内面的なスキルを指し、「人とうまく関わる力」「感情のコントロール力」「くじけない心」等です。)
5. 発達ピラミッドを踏まえた療育を行います。(基礎感覚を伸ばす)(感覚の土台から整える)

【個別療育プログラム】

- ・認知発達の活動
- ・感覚統合療法
- ・言語療法(ことばの練習)
- ・学習支援
- ・SST
- ・創作活動

【集団療育プログラム】

- ・運動遊び
- ・リトミック
- ・感触遊び
- ・手先遊び
- ・制作遊び
- ・言葉遊び
- ・数字遊び
- ・SST
- ・表現遊び
- ・ルール遊び
- ・食育
- ・避難訓練

【本人支援】

<本人支援の5領域>

- A「健康・生活」
心身の健康や生活に関する領域
- B「運動・感覚」
運動や感覚に関する領域
- C「認知・行動」
認知と行動に関する領域
- D「言語・コミュニケーション」
言語・コミュニケーションの獲得に関する領域
- E「人間関係・社会性」
人との関わりに関する領域

健康状態

A「健康・生活」

- 来所時には体温計測を行い、お子さまの健康状態、体調の変化がないかを丁寧に確認し、安心して活動に取り組めるよう配慮します。
- 教室でのルールを一つ一つ丁寧に伝え、スモールステップでできることを増やし身辺自立を促して行きます。できるようになったことを具体的に褒めて自信に繋げていけるように支援します。
- 挨拶や返事をする際には相手の目を見て話せるよう、適宜声掛けを行い、コミュニケーションの基本を身につけられるよう支援します。
- 身の回りの片付けや準備を、自ら進んで行えるように働きかけ、主体性を育みます。
- 正しい手洗いができるよう、イラストを活用しながら視覚的にわかりやすく支援します。
- みんなで使う物を大切に扱えるよう、日常の活動の中で意識づけを行い、丁寧な扱い方を身につけられるよう支援します。
- 自分で使ったおもちゃは、自分で進んで片付ける習慣を身につけられるよう支援します。



心身機能・構造

活動

参加

B「運動・感覚」

- 椅子に座って話を聞き、落ち着いて活動に参加できるよう、お子さま一人ひとりに合った支援を行います。
- 身体表現や運動を通して、体を動かす楽しさを味わいながら、体幹を安定させ、自分の体や動きをコントロールする力を養います。
- 活動の中で、全身を使う運動(粗大運動)や、手や指を細かく使う動作(巧緻動作)に楽しく取り組めるよう配慮します。お子さまの頑張る姿を称賛し自信に繋がるように支援します。
- バランスストーンやトランポリン、バランスボールを活用し、バランス感覚や体幹を整えます。
- 粘土やスライム、指で絵を描く遊びなど、さまざまな感触を楽しむ遊びを通して、五感を刺激する支援を行います。
- 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を活用し、視覚的に理解する力を伸ばす支援を行います。
- 楽器や音楽を使った活動を通じて、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする力を育み、楽しく「聴くこと」や「聴いて理解する力」を養います。

C「認知・行動」

- 視覚的支援(具体物・写真・絵カード等)を用いて次の行動を事前に伝えたり、タイムタイマーを使って時間の切り替えを示したりすることで、お子さまが理解しやすいように支援します。
- 個別療育では、鉛筆やクレヨンを使った「書く」「塗る」などの活動を行い、力強く書く経験を積んでいきます。
- 塗り絵や線つなぎ、迷路などの課題を楽しく取り組みながら、筆圧や運筆力を高めます。
- 職員の話最後まで落ち着いて聞けるよう、話し方を工夫し、視覚的支援を活用しながらサポートします。
- 「聞く聴くドリル」「言葉の記憶」「絵本の読み聞かせ」などの活動を通して、聞く力を養います。
- タイムタイマーやスケジュール表を活用し、次の行動を視覚的に示すことで見通しを持たせ、期待を持って切り替えができるよう支援します。切り替えが難しい場合は、お子さまの気持ちを受け止めながら代替行動を提案したり、必要に応じて毅然とした態度で正しい行動を伝えたりします。

D「言語・コミュニケーション」

- お子さまの様子を把握しながら、言語聴覚士による専門的な支援を行います。
- 職員を介して他のお子さまとの関わりをもち、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように支援します。
- 好きな遊びを一緒に楽しんだり、歌や体操をしたりする中で、自然と発声や発語の機会を増やします。
- 挨拶や返事をする中で、動作と言葉を結びつけ、発語を促す取り組みを行います。
- 身近な物の名称、日常生活における言語の理解を上げ発語に繋げていけるように一つ一つの言葉を丁寧に伝えていきます。また、要求や気持ちのやり取りをする力を育ていけるように、職員が手本になり気持ちを代弁していく等、その場に応じた支援を行います。
- 絵本の読み聞かせやごっこ遊びを通して言葉の表現力を育み、職員や他のお子さまと言葉のやりとりを楽しむ経験を積み重ね、適切な言葉遣いができるように支援を行います。
- 不適切な発言があった際は、お子さまの気持ちを受け止めつつ、状況を振り返り、「自分が言われたらどう感じるか」などを一緒に考え、適切な言葉を使うよう伝えます。また、不適切な言葉を使った相手に対して謝罪ができるよう促します。
- 活動の中で「ふわふわ言葉(優しい言葉)・ちくちく言葉(傷つける言葉)」について一緒に考えます。日常生活の中で職員が丁寧な言葉を使って伝えることで、お子さまが自然と正しい言葉遣いを身につけられるよう支援します。

E「人間関係・社会性」

- 好きな遊びを通して職員との信頼関係を築き、安心して過ごせるよう支援します。
- 集団療育などの場面で気持ちを伝える機会を作り、職員が手本となり、時には気持ちを代弁しながら、コミュニケーション力を育みます。
- 職員を介して他のお子さまと関わる機会を作り、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようサポートします。
- 遊びや活動の中で、「貸して」「一緒に遊ぼう」などの言葉のやりとりができるよう場面を設定し、他のお子さまと関わりながら自分の気持ちを伝える機会を作ります。
- 物事を考える力や判断する力を育てるために、良いことと悪いことを考える場面を作ります。その中で、どう行動すればよいかを考え、自分の言葉で伝え、実践できるように支援します。
- 集団活動に喜んで参加し、ルールを守ったり協力して取り組んだりする経験を重ねることで、一緒に活動する楽しさを味わいます。
- 自己抑制の力を身につけ、周囲の状況に合わせて適切に行動できる力を養います。

<体験・経験(行事等)>



- 季節の行事(夏祭り・ハロウィン・クリスマス会・節分・ひな祭り等)
- 課外活動(近隣施設や公園への外出活動)
- 食育

<職員の質の向上>

- 職員研修(療育に関わる様々な研修)
- 虐待防止研修
- 身体拘束適正化研修
- 感染症対策研修

【家庭支援】



- 個別 & 集団療育で行った活動内容を保護者に伝え、定期的に面談の機会を設けて情報を共有します。
- 個別療育などの観察の機会を作り、支援のポイントや関わり方について保護者へフィードバックを行います。

【移行支援】

- 必要に応じて幼稚園及び保育園での様子を伺い、本児との関わりについて情報を共有します。
- 送迎時や電話などを通じて、事業所での様子をお伝えし、日々の情報交換を行います。

【地域支援・連携】

- 情報収集や役割分担について協議するため、定期的に連携会議を開催します。
- 各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や困りごとへの対応方法について提案し、支援のポイントを共有します。